「お言葉どおり、この身に成りますように」　　２０２５年１２月７日　主日礼拝
ルカによる福音書　第１章２６～３８節

おはようございます。

１２月に入りました。もうすぐクリスマスを迎えますので、今月は私たちがこれまで読んできました使徒言行録から少し離れ、ルカによる福音書をご一緒に読んでいきます。

今から約２千年前、ナザレという小さな町に住む女性・マリアが救い主の母親として選ばれました。なぜ彼女が選ばれたのでしょうか。彼女が選ばれた理由は、聖書には特に記されていません。今日の聖書の箇所には、天使ガブリエルがナザレの町に神から遣わされたこと、その遣わされた先がマリアという女性であったこと、彼女はダビデ家のヨセフという人のいいなずけであったことだけが記されており、マリアの信仰に関することは一切記されていません。なぜ、マリアが救い主の母として選ばれたのでしょうか。

マリアが特に信仰深かったからでしょうか。確かにマリアは、３８節で「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」と神様から与えられた役割、救い主の母としての役目を引き受ける決断をしています。ところが、マリアが最初からそうだったのかといいますと、それより前、２９節では、マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ、と記されております。また３４節では、マリアは天使に向かって「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに」と答えています。このように、マリアの信仰も、人間的な常識を打ち破ることはできなかったのです。そう考えますと、マリアが他の人々よりもとても優れた信仰を持っていたのかというと、どうもそうでもなさそうです。このことを確かめるために、今日の聖書の箇所の少し前を読んでみますと、バプテスマのヨハネの両親となったザカリアとエリザベトに関して、聖書は次のように記しています。ルカによる福音書１章６節、今日の聖書の箇所の１ページ前になりますが、そこにはこう記されています。【二人とも神の前に正しい人で、主の掟と定めをすべて守り、非のうちどころがなかった。】　それに比べると、マリアは今日の聖書の箇所２７節で【ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。】という紹介しかされていないのです。このように見てみますと、マリアは特別に信仰深かったから選ばれたわけではなかったのかもしれません。

ではなぜ、マリアが救い主の母として選ばれたのでしょうか。そこには、何も特別な理由はありませんでした。何の理由もありません。あえて理由を探すなら、マリアが普通の一庶民にすぎなかったこと、でしょうか。マリアが神様から選ばれた理由があるとするなら、彼女が貴族や王様の家系のように身分の高い者ではなかったということでしょう。なぜ救い主の母が、身分の高い者ではいけなかったのでしょうか。イエス・キリストがもし、貴族や皇室のようなところに生まれていたら、貧しい羊飼いたちは会いに行くことができなかったからです。救い主が王家に生まれていたなら、羊飼いたちは天使の知らせを受けても、そこへ会いに行くことはできませんでした。それはとても大変なことです。なぜなら、イエス様は、貧しい者たち、弱い者たち、悩みや苦しみを抱えている者たち、罪人と呼ばれていた人たち、社会の片隅に追いやられていた人たちのためにこの世に来てくださった救い主だったからです。羊飼いたちが会いに行くことのできないような身分の高い家

に生まれたのなら、すべての人の救い主になることはできません。ですから、マリアが選ばれるための条件を満たしていたとするなら、それは彼女が身分の高い家の者ではなかったという条件だけなのです。しかも彼女は、エルサレムのような大きな町ではなく、ガリラヤのナザレという名もない小さな町に住んでいました。国の中央ではなく周辺の地域に住む人々にとって、一地方の小さな町の住人から救い主が生まれたというのは、とても大きな励みになったことでしょう。

マリアが救い主の母として選ばれた。そこには、マリアの側には特別な理由はありませんでした。それは、神様が決められたこと、神様が選ばれたことだからです。神様の御用に与る者は、いつも、こちら側には選ばれる理由はありません。神様が選んでくださり、神様が用いてくださる。そこには、神様側からの理由以上のものは何もないのです。

マリアが選ばれたのに、満たしていた条件はただ一つ。それは、身分の高い家柄ではなかったこと。ただそれだけでした。しかしそんな条件を満たすイスラエルの女性は、たくさんいたはずです。ではなぜ、その大勢の中からマリアが選ばれたのでしょうか。

私はこんなふうに思うのです。聖書には記されていないけれども、もしかすると、天使ガブリエルが訪れた女性は、マリアだけではなく、他にもいたのではないか。ナザレの町だけではなく、小さな名もない町の貧しい女性のところへ、天使ガブリエルは何人もの女性のところへと出かけていったのではなかろうか。しかし、他のところでは断り続けられたのです。クリスマスの際に、身重のマリアとヨセフが何軒も宿屋を探して歩き回り、断り続けられたときのように、天使ガブリエルも何人もの名もない貧しい女性に「おめでとう、恵まれた方」と声を掛けたのに、ある人たちにはその声は届かなかったし、ある人たちからは断られ続けたのではないだろうか。天使が、婚約者のいる女性のところへ出かけていって夫以外の子どもが生まれるという出来事を告げた。いったい誰がそんなことを引き受けてくれるでしょうか。それが原因で婚約が破談になるかもしれない。破談になったら、それこそ物笑いの種でしょう。婚約者がある身でありながら、誰か知らない人の子どもを産んで、破談になった。しかもその子は、聖霊によって身ごもったと訳のわからないことを言う女として、家族からも相手にされなくなったことでしょう。そうなれば、当然、その町に住むことはできません。どこか知らない町に行って、ひっそりと我が子と２人で、隠れるようにして暮らさなければならない。それでも生きていければまだましかもしれません。ヨセフと婚約していたマリアが、ヨセフの子どもではない子を身ごもった。不倫があったと判断されれば、マリアもお腹の赤ちゃんも石打ちの刑で命を奪われるかもしれません。そんな大変なことを、誰もが簡単に引き受けてくれるはずがありません。ですからマリアも、天使から声をかけられたとき、戸惑ったり否定したりしたのでしょう。もしマリアがここで断っていたなら、彼女は救い主の母親になることはありませんでしたし、聖書にその名前が残ることもありませんでした。しかし、最後にマリアは引き受けました。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」。このとき、マリアは大きな決断をしたのです。どんな困難なことが待ち受けているかも知れない。もしかすると、ヨセフとの婚約も破談になるかもしれない。いや、生まれてくる赤ちゃんと一緒に、石打ちの刑になるかもしれない。それをまぬがれても、とてもこの村で暮らしていくことはできない。けれどもマリアは、神様からいただいた自分の役目を果たすために決断しました。なぜでしょうか。それは、マリアが受けたことは、神様からの招きだったから

です。マリアは、神様からの招きに応えて、救い主の母親になることを決断したのです。

マリアが選ばれたのには、特別な理由はありませんでした。しかし、マリアは神様から選ばれました。自分にはとてもその資格がない、自分はとうてい引き受けることのできるような者ではない、ということをよく知っていたマリアは、それでも主の御用のために自分が招かれたということを知り、その招きに応えました。それがマリアの信仰の決断だったのです。

今日、ここにおられる私たちも、今日のこの礼拝に集うようにと神様によって選ばれ、神様から招かれ、その招きに応えた人たちです。そして神様は、ここにおられるお一人お一人に、さらなる信仰の決断を求めておられます。マリアに対して、主の御用のために救い主の母親となるようにと決断を迫ったように、神様はみなさんに信仰の決断を迫っておられます。神様から求められている役割はそれぞれ違うでしょうが、ここにおられるみなさん一人一人に神様は信仰の決断を求めておられます。この神様からの求めに対して、私たちもマリアのように応えさせていただこうではありませんか。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」と、応えさせていただこうではありませんか。何もできなくていい。何もできないからこそ、神様はあえてそういう人を選んでくださるのです。コリントの信徒への手紙一の１章２６節以下で、パウロはこう語っています。【兄弟たち、あなたがたが召されたときのことを、思い起こしてみなさい。人間的に見て知恵のある者が多かったわけではなく、能力のある者や、家柄のよい者が多かったわけでもありません。ところが、神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選ばれました。また、神は地位のある者を無力な者とするため、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下げられている者を選ばれたのです。それは、だれ一人、神の前で誇ることがないようにするためです。】

マリアは救い主の母として選ばれる資格があったから選ばれたのではありませんでした。何者でもないマリアを神様が選んでくださり、マリアはその招きに応えただけでした。同じように私たちも、何物でもないこの私たちを用いてくださる神様の招きに応える者、マリアのように「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」と応える者にならせていただこうではありませんか。私たちが、神様からの招きに応えるとき、神からの御使いはこう言われるからです。「神にできないことは何一つない」。

お祈りしましょう。